

令和2年度 第1回 地方独立行政法人新小山市市民病院評価委員会 会議要録

日 時：令和2年7月1日（水） 15：00～17：00

場 所：小山市健康医療介護総合支援センター 検診室

出席者：塚田錦治委員長、佐田尚宏副委員長、浅野春美委員、高田純子委員、
岸野康之委員、片山照美委員

【新小山市市民病院】

島田和幸理事長、折笠清美看護部長、坂田普事務部長、石橋英俊事務副部長、
阿部行博総務課長、島田守医事課長、関彰経理課長、経理課 神谷努主幹

【事務局（保健福祉部健康増進課地域医療推進係）】

室橋正枝健康増進課長、関口律子地域医療推進係長、鈴木香奈子主査

会議経過

1. 開会

発言者	内 容
2. 委員・関係者自己紹介	
3. 議事	
事務局	（1）令和2年度評価委員会審議事項及び評価スケジュール等について 事務局説明【資料1～4参照】
	議事（1）については、質問意見等なし
	（2）令和元年度事業報告書及び財務諸表等について
新小山市市民病院	事業報告 P.7～説明 【資料5参照】
新小山市市民病院	事業報告 P.9～説明 【資料5参照】
新小山市市民病院	事業報告 P.2～財務諸表の概要を説明 【資料5、7参照】
委員長	議事（2）について、質問意見等あれば伺いたい。
副委員長	大変すばらしい事業報告。入院、外来に関しても単価、患者数も増加している。 一つ伺いたいの、病院診療単価が上がっている要因を教えてください。
新小山市市民病院	在院数の低下が考えられる、DPC 二期以内の退院というのを職員全体に浸透している のでコントロールができていた。
副委員長	DPC 係数はどれくらい変化したのか。
新小山市市民病院	金額ではだいたい1億円くらいは上がっている。
副委員長	昨年も伺っているが、増益金の4～5億円について、これをプールにするのか、 そういった計画はあるか。
新小山市市民病院	とりあえず今は何かあった時に心配ないように積立てたい。全国の病院と同じ ように、当院の今年4～5月の収益はコロナの影響で-11%くらいになっている。 もしこのまま進んだら、令和元年度は5億の黒字だったが、今年5億の赤字 になってしまってもおかしくないような状況。何かあっても十分に職員を守っ ていける状況を維持していきたいと思っている。
副委員長	いわゆる、非常時のための積立をしたいということですね。

委員長	3月まではコロナの影響はなかった数値ですが、今の話だと、4、5月はかなり影響を受けている。この影響が残っていく可能性が考えられ、その対策が必要。国も色々な形で支援策を出しているのでもうそういったものを利用できればいい。
委員	15ページの人材育成のところ、病院の研修委員会を中心に新人研修を全職種対象とするというのは、なかなか難しいことだと思いますが、やってみて効果を伺いたい。病院への帰属意識を高め、職員の意識向上には非常に有効だと思う。
新小山市市民病院	私達は、院内の教育委員会を作り、元看護部は1年目で一泊の新人研修を行っていたが、やはり多職種協同でチーム医療が必要だということで、去年から全職種対象の一泊研修を始め、またワンチームとして帰属意識を高めることが必要ということで、3年目を対象に、一泊研修と日帰り研修の2つを組み立てた。対象者は60名程度で、一泊研修を2月に行ったところで3月の日帰り研修はコロナの影響で中止せざるを得なくなり、今年9月に3年目の全職種対象の日帰り研修を企画している。一泊で行った方にアンケートを取ったところ、多職種と交わることができてよかったという意見があった。3年目を対象にしているが、10年目以上の方々を対象とした研修など、共済会の事業などもあるが、院内の教育委員会として考えていきたいと思っている。
委員	22ページの説明の中で、全国53ある独立行政法人の中で27位とあるが、今回初めてなのか、前はどれくらいだったか。
新小山市市民病院	今言った27位というのは、単年度というよりは、過去の蓄えに対する安定性の順位になる。7年前は自己資金ほぼ0だったので、最下位くらいの順位だったと思う。毎年少しずつ蓄えていった結果、ようやく真ん中くらいに来た。昨年度は30何位くらいだったと思う。
委員	今後27位という順位を上げていく計画はあるか。
新小山市市民病院	先ほどもお伝えしたが、蓄えの部分での順位になる。佐田副委員長が仰った、今後蓄えが増えれば、投資にも回せるが、必ずしも上にいったからいいということではなく、これからは安定性を重視しながら、有効に使っていこうと考えている。
委員	もう一つ伺いたいのが、市の一般会計から、病院に対して7億ほど負担している。病院を利用するにあたって、市民だから、何か優遇されるということは検討されているか。
新小山市市民病院	独立法人化する前は市民に対する優遇措置も行っていたが、独法化して、それを廃止した。市内の住民から地域、更には全国の患者に対する医療機関となり、すべからず平等に均等に対応している。
新小山市市民病院	補足になるが、市から6億5千万円を運営費負担金としていただいているが、その中には細かく計算の内訳があるが、市民を優遇するという措置は全くない。救急医療、小児医療、投資に対してもものを計算して、国が言う、基準内繰り入れとしていただいている。
委員長	医療の世界は行政と違って、小山市だけ優遇されるということは難しい。しかし、これだけの規模の病院が小山市にあるということは、それだけで市民にとっては優遇されている。そういった意識をもって医療機関を育てていかなければ、市民に有効な医療を提供できない。
委員	2点質問がある。1点目は、6ページの行政コスト計算書だが、2億8千300万円となっており、29年に比べると半分くらいになっていて、改善されているが、他の市民病院と比較してどうなのか。

	<p>もう1点は、平成30年度から令和2年度に向けて長期借入金の返済がピークになるとあるが、長期借入金を見てみると、まだ返済が始まっていないものがあるのだが、これについてはいつ返済が始まるのか。また、その期間については大丈夫なのか伺いたい。</p>
新小山市市民病院	<p>最初に長期借入金についてお答したい。財務諸表の15ページを参照いただきたい。新病院を開いた平成26年、27年の時に多額の借金をした。医療機器については5年返済になる。表のNo. 2. 4. 5. 6あたりだが、20数億借りたものを5年返済のため、毎年5億ずつ返している。ただ建物の返済については30年返済であり、5年元金据え置き期間なので、最初の5年は利子のみ返済している。6年目から30年目までは均等返済。建物に関しては返済期間が非常に長いので、減価償却も耐用年数が長い関係で、返済額が少なくなる。建設時には30億くらい補助金もいただいております、それも収益化をしているので、建物分の返済に関しては負担に感じてはいない。そのため、医療機器分の返済が必要な最初の5年間をピークとしている。ここを乗り越えれば一段落すると考えている。</p> <p>次に、行政コスト計算書で他の病院との比較だが、これについて、他の病院と比較することはないが、このコストが低いということは設立団体から余計な補助金をあまりいただけていないということ。市からいただいている運営費負担金は、少しでも削減できないかと考えており、それについては全国の独法病院と比較している。市からいただいている運営費負担金を総収益で割った比率は令和元年度決算では6.2%で、全国の地方独立行政法人は53法人ある中で病院としては複数持っているものもあるので、病院としては90ある中で少ない方から13位相当。今はピークで、これからは更に少なくなっていくので全国でもトップクラスの少なさになると判断している。</p>
委員	<p>全国の市立病院はそれぞれがあまりにも違う。赤字の自治体病院もたくさんある。また、日本一大きい市立病院で、旭中央病院が千葉県にあるが、3万7千人という小さい規模の市に対して病院の実力が見合っていないということで、近年様々な弊害を生みだしている。そういった中で、新小山市市民病院は小山市の規模に見合っている実力の病院だと思っている。いい病院がここにあるととらえたほうがいいと思う。1点伺いたいのは、コロナの影響で、2.3月、大学病院が病床を空け始めなければいけないなどでの、この地域だと自治医大からの影響はなかったか。</p>
副委員長	<p>栃木県はコロナ患者があまり出なかった関係で、自治医大はコロナに対して備えてはいたが、病床を空けることや診療を控えるということはなかった。色々な学会の勧告で、内視鏡などはあまりやらない方がいいということもあったが、各科の事情で控えたところもあったが、病院としては特に制限はしなかった。3月は入院についてはあまり影響なかったが、外来は減少し、病室稼働率についても、4～6月は減少した。そういったところを踏まえてお答えいただければ。</p>
委員長	<p>近隣の指定感染症病院は、3月の時点からすでに減収が甚だしいと聞いた。比較するものではないが、新小山市市民病院は病診連携（地域医療機関との紹介、逆紹介）が熟成してきていて、その仕組みがうまくでき上がってきているので、それを崩さずにできればいい状況になるのではないかと。コロナによる風評被害を防ぎ、地域の医療機関が協力し合っていくべきだと思う。</p>
委員長	<p>今までの事業評価については、委員の皆様の意見をまとめて評価委員会として意見書を提出する。</p>

	すでにふれているが、財務諸表について、適正等について意見を伺いたい。
	特になし。
委員長	全体評価としての意見はいかがか。
副委員長	先程も伝えたが、昨年の実績はすばらしい。ただ今年度はどうなるか色々なことを考えていかなければならない。一番は、患者さんが病院に来ないことで、健康被害になることを避けなければならない。この状況でも受診してもらえよう広報活動をしなければならない。必要な医療は提供しなければならないので、小山市民の皆様にも広報活動が必要ではないか。
委員	先程、溜まったお金は蓄積していくべきと、何があるかわからないということがあったが、コロナが始まり、世界中でお金を擦り、それを巨大企業のみが集めるということが起こっている。この次に医療はどうするのか。福祉医療機構が据え置き期間の長い無利子のほぼ返さなくてもいいくらいの融資をしている。かなり大きい金額を借りられるとのこと。お金の意味が変わってきている。コロナ禍で、返せるかわからないが、お金をストックしている医療機関が多いので、市民病院の考え方は、そういった理屈から言っても大きな意味がある。
委員長	条件のいいものを見逃さないように、利用してほしい。
	(3) 中期目標期間の見込み評価について
新小山市民病院	資料10 大項目1～3、5 指標、次期課題、法人自己評価のみ説明
新小山市民病院	資料10 大項目4 指標、次期課題、法人自己評価のみ説明
事務局	今後の進め方説明

4. 閉会

以上